

令和7年度 北海道手稲養護学校学校評価分析レポート

目次

1. はじめに
 2. 教職員評価の分析 2.1. 評価結果の概要 2.2. 評価が高かった項目(3.9) 2.3. 評価が3.0だった項目 2.4. 自由記述の傾向と課題 2.5. 教職員評価のまとめと分析
 3. 保護者評価の分析 3.1. 評価結果の概要 3.2. 評価が高かった項目(3.9) 3.3. 評価が3.5・3.7だった項目 3.4. 自由記述の傾向と課題 3.5. 保護者評価のまとめと分析
 4. 全体総括
-

1. はじめに

本レポートは、令和7年度に実施された学校評価(教職員用・保護者用)の集計データおよび自由記述に基づき、学校運営および教育活動の成果と課題を分析したものである。

- 対象: 教職員(回答数 48 名、回収率 86%)、保護者(回答数 30 名、回収率 68%)
- 目的: 評価結果の数値と自由記述から成果と課題を明らかにし、次年度の学校運営改善の資料とする。

2. 教職員評価の分析

2.1. 評価結果の概要

全 27 項目のうち、すべての項目において前年度と比較して平均点が維持または上昇した。全体として教職員の自己評価は向上傾向にあり、組織的な取り組みの成果が数値に表れている。

2.2. 評価が高かった項目(3.7 以上)

主な項目について、結果と関連する自由記述、および分析を以下に示す。

① 項目 19:教育公務員としての自覚を持ち、服務規律を厳守している。

- 評価結果: 平均 3.8(昨年度 3.6)
- 自由記述: (特になし)
- 分析(評価差の背景): コンプライアンス意識が組織全体に浸透しており、教職員一人一人が高い意識を持って業務に従事している。管理職による啓発や職場研修が定着している結果と言える。

② 項目 27:体罰防止に関する取組の抜本的な強化に取り組んでいる。

- 評価結果: 平均 3.7(昨年度 3.3)
- 自由記述: (特になし)

- **分析(評価差の背景):** 昨年度よりポイントが大きく向上した。体罰防止に向けた具体的な研修やスローガンの徹底など、学校全体での取り組みが功を奏している。

③ 項目 13:「ほう・れん・そう」や組織としての業務推進の工夫。

- **評価結果:** 平均 3.7(昨年度 3.3)
- **自由記述:**
 - 「センターとの連携では、窓口を明確にすることで組織的に情報共有ができた」
- **分析(評価差の背景):** 報告・連絡・相談が徹底され、風通しの良い職場環境が醸成されている。特に外部機関との連携において、窓口の一元化などの工夫が業務効率化に寄与したと評価されている。

2.3. 評価が 3.0 だった項目

本年度の集計において、平均点が 3.0 未満となる項目は存在しなかった。参考として、平均 3.0 項目

① 項目 6:ICT 機器の活用(学習目標達成・資質能力向上のための手立てとして)

- **評価結果:** 平均 3.0
- **自由記述:** (ICT に関する直接的な記述なし、ただし業務負担感の記述あり)
- **分析(評価差の背景):** 「できていない」と感じる層が一定数存在する。ハードウェアの環境整備だけでなく、授業での具体的な活用方法やスキルに個人差があることが要因と考えられる。スキルアップが求められる。

② 項目 7・18:他校との交流および地域社会との連携

- **評価結果:** 平均 3.0
 - **自由記述:** (特になし)
 - **分析(評価差の背景):** コロナ禍以降の再開やお膳立ての難しさが影響しているが、昨年度の 2 点台からは改善している。外部機関の活用は進みつつあるものの、日常的な連携にはまだハードルを感じている教職員がいる。
-

2.4. 自由記述の傾向と課題

数値には表れない現場の実情として、以下の課題が抽出された。

1. 業務分担の偏り

- 転入生の多い学級や特定の分掌に業務が集中しており、「仕方がない」では済まされない負担感があるとの指摘があった。

2. 児童生徒の安全管理と定員

- 指導学級の人数に上限がないことへの懸念が出されている。学級定員を超えた際の人員配置(臨時学級開設など)や、安全確保のための体制見直しを求める切実な声がある。

3. 教職員の規律・統一感

- サンドル履きでの指導に対する安全面の懸念や、児童生徒への呼称(「ちゃん」付け等)の不統一について、意識の温度差が指摘されている。

2.5. 教職員評価のまとめと分析

【成果】 服務規律や組織的な業務遂行(チームワーク)に関する項目は非常に高い評価を得ており、学校運営の基盤は安定している。

【課題】 ICT 活用と対外的な連携活動が、改善傾向にあるものの依然として相対的な弱点である。また、自由記述からは「業務量の偏在」と「安全管理上の人員配置」に対する不満が読み取れる。数値上の評価は高いが、一部の教職員に過度な負担がかかっている現状はある。

3. 保護者評価の分析

3.1. 評価結果の概要

全 19 項目すべてにおいて平均点が「3.5」以上となり、保護者からの満足度は極めて高い水準にある。昨年度と比較しても、多くの項目で同等以上の評価を維持している。

3.2. 評価が高かった項目(3.9)

すべての項目が 3.5 以上であるが、特に高得点(3.9)であった項目を取り上げる。

① 項目 2: 教職員は、お子様を理解し、丁寧に対応している。

- 評価結果: 平均 3.9
- 自由記述:
 - 「子供のことをよく理解して、根気強く対応いただき感謝している」
 - 「先生たちが優しく見守ってくれて、本人も安心している」
- 分析(評価差の背景): 保護者が最も重視する「我が子への理解」において最高評価を得ている。入院や転入など環境変化の大きい児童生徒に対しても、個別の配慮が行き届いていることが信頼につながっている。

② 項目 5: 安全な学習環境の整備、健康観察。

- 評価結果: 平均 3.9
- 自由記述:
 - 「安心して通わせることができた」
- 分析(評価差の背景): 医療的ケアが必要な児童生徒も多い中、健康観察や環境整備が徹底されていることが、保護者の安心感の源泉となっている。

③ 項目 11: 保護者に対する親身な対応、分かりやすい説明。

- 評価結果: 平均 3.9
- 自由記述:
 - 「いつも大切に見守っていただきありがとうございます」
- 分析(評価差の背景): 家庭との連携が密に取れており、相談しやすい関係性が構築されている。

3.3. 評価が 3.5・3.7 だった項目

① 項目 8: 授業等で効果的に ICT 機器(タブレット端末等)を使用している。

- 評価結果: 平均 3.5(無回答が多い傾向)
- 自由記述: (特になし)
- 分析(評価差の背景): 教職員評価と同様、ICT 活用が相対的に低い。保護者が授業を見る機会が限られているため「無回答」も多く、具体的な活用の様子が家庭に伝わりきっていない可能性がある。

② 項目 7: 通知表や学習の記録から、目標達成に向けた様子が伝わってくる。

- 評価結果: 平均 3.7
 - 自由記述:
 - 「学校での様子をもう少し知らせてほしい」との要望が一部にある。
 - 分析(評価差の背景): 昨年度より評価を下げている。日々の学習の様子や成長のプロセスを、どのように可視化して伝えるか(お便り、通知表の記述内容など)に改善の余地がある。
-

3.4. 自由記述の傾向と課題

【傾向】「感謝」「安心」「信頼」という言葉が圧倒的多数を占める。短期間の在籍であっても、教職員の関わりに対して非常に肯定的な感想が寄せられている。

【課題・要望】

- 学習内容や学校での様子について、より細やかな情報提供を求める声がある（特に話すことが難しい児童生徒の保護者から）。
- 他学年との交流機会の充実を望む声がある。

3.5. 保護者評価のまとめと分析

3.0 未満の項目は存在しなかった。

保護者評価は「満足」の域に達していると言える。特に教職員のヒューマンスキル(受容・対応・熱意)が高く評価されている。一方で、教育活動の「中身(ICT 活用や具体的な学習プロセス)」をどう保護者に伝えるかを考えたい。

4. 全体総括

令和7年度の学校評価は、教職員・保護者双方において高い評価結果となった。

昨年度 3.0 以下だった項目も改善されており、次年度は本年度の取り組みをさらにブラッシュアップさせていく年度としていく。

- **共通する成果:**「児童生徒への丁寧な指導・支援」「安全・安心な環境づくり」は本校の最大の強みであり、教職員の努力が保護者の信頼に直結している。また、教職員間での連携(報告・連絡・相談)もスムーズに行われている。
- **共通する課題:**「ICT 機器の活用」が双方でやや低い評価となっている。教職員は実践力に不安を持ち、保護者はその効果を実感しにくい状況にある。次年度の重点課題として、ハード面の整備だけでなく、授業公開や発信を通じた「活用の可視化」が必要である。
- **経営上の留意点:** 数値評価は高いが、教職員の自由記述には「特定個人への業務集中」や「定員管理」に関する訴えがある。